

JFEシステムズ株式会社

2012年3月期 決算説明会

2012年4月25日

目次



I . 2012年3月期決算概況	P 3
II . 2013年3月期業績見通し	P 9
III . 中期重点施策の推進状況 と今後の取組み	P15
(補足データ: 単体損益)	P25

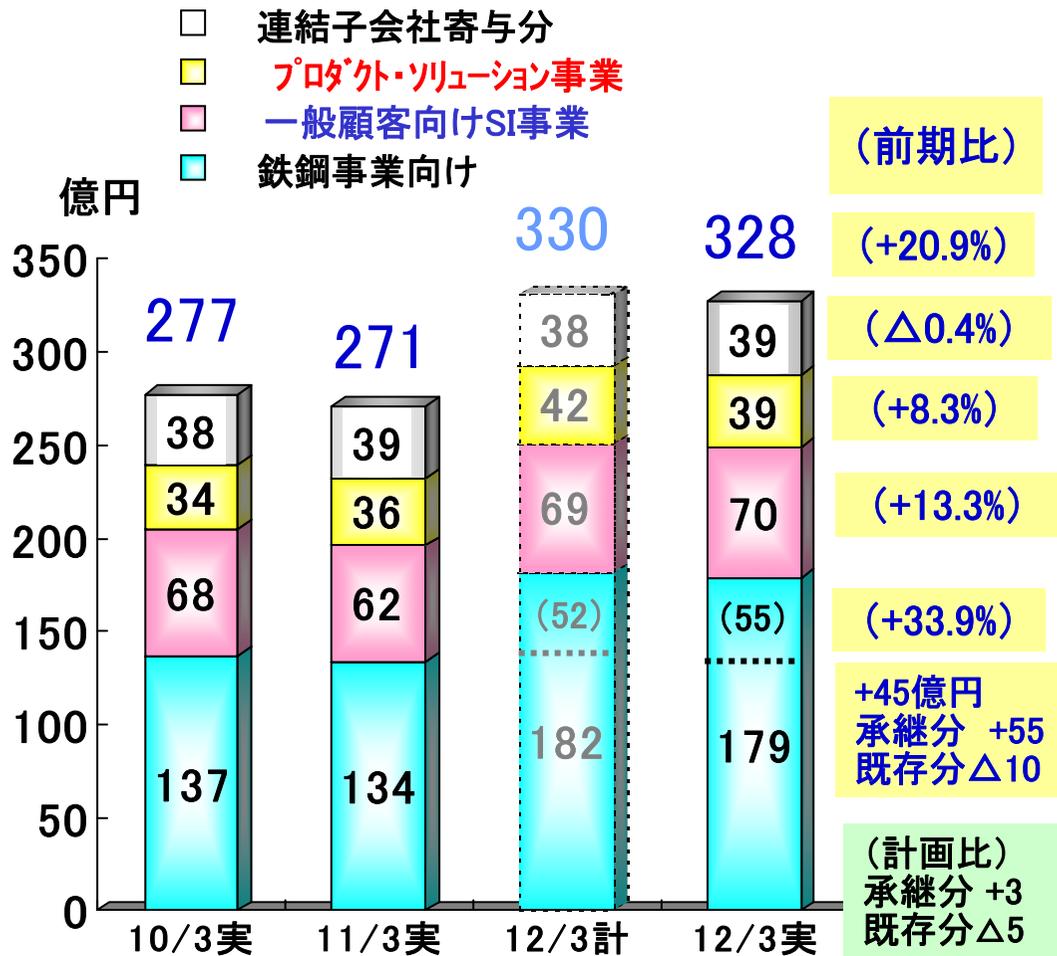
I . 2012年3月期 決算概況

2012年3月期業績の概要

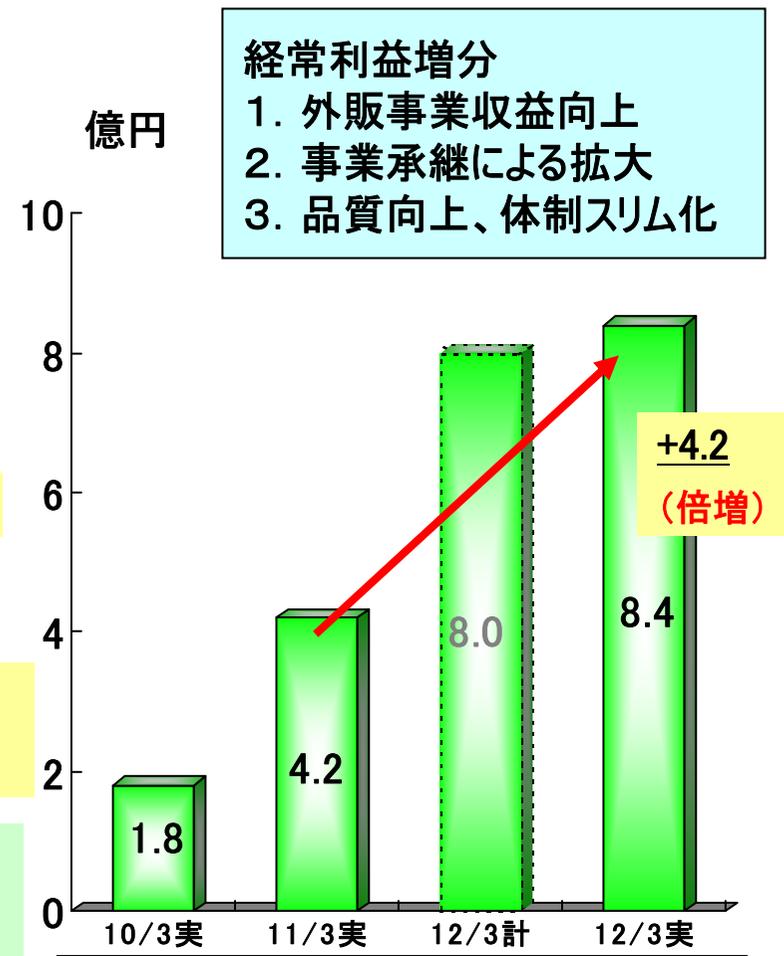


エクス鉄鋼事業統合と外販収益向上により対前期、増収増益となった。

<連結売上高>



<連結経常利益>



経常利益増分

1. 外販事業収益向上
2. 事業承継による拡大
3. 品質向上、体制スリム化

計画を上回る利益を確保した

2012年3月期業績(連結:計画比)



単位:百万円	計画	実績	増減	
			金額	率
① 売上高	33,000	32,754	△ 246	△ 0.7%
営業利益	840	878	38	+ 4.6%
② 経常利益	800	841	41	+ 5.2%
(経常利益率)	2.4%	2.6%	(0.2%改善)	
③ 当期純利益	400	352	△ 48	△ 12.0%

- ①(売上高) 鉄鋼向けが計画比減少。一般顧客向けSI事業は計画を達成
- ②(経常利益) 鉄鋼向けのマイナスを外販事業でカバーし、計画を上回る利益を確保
- ③(当期純利益) 税制改正による繰延税金資産の取り崩し影響により計画比減少

2012年3月期業績(連結:前期比)



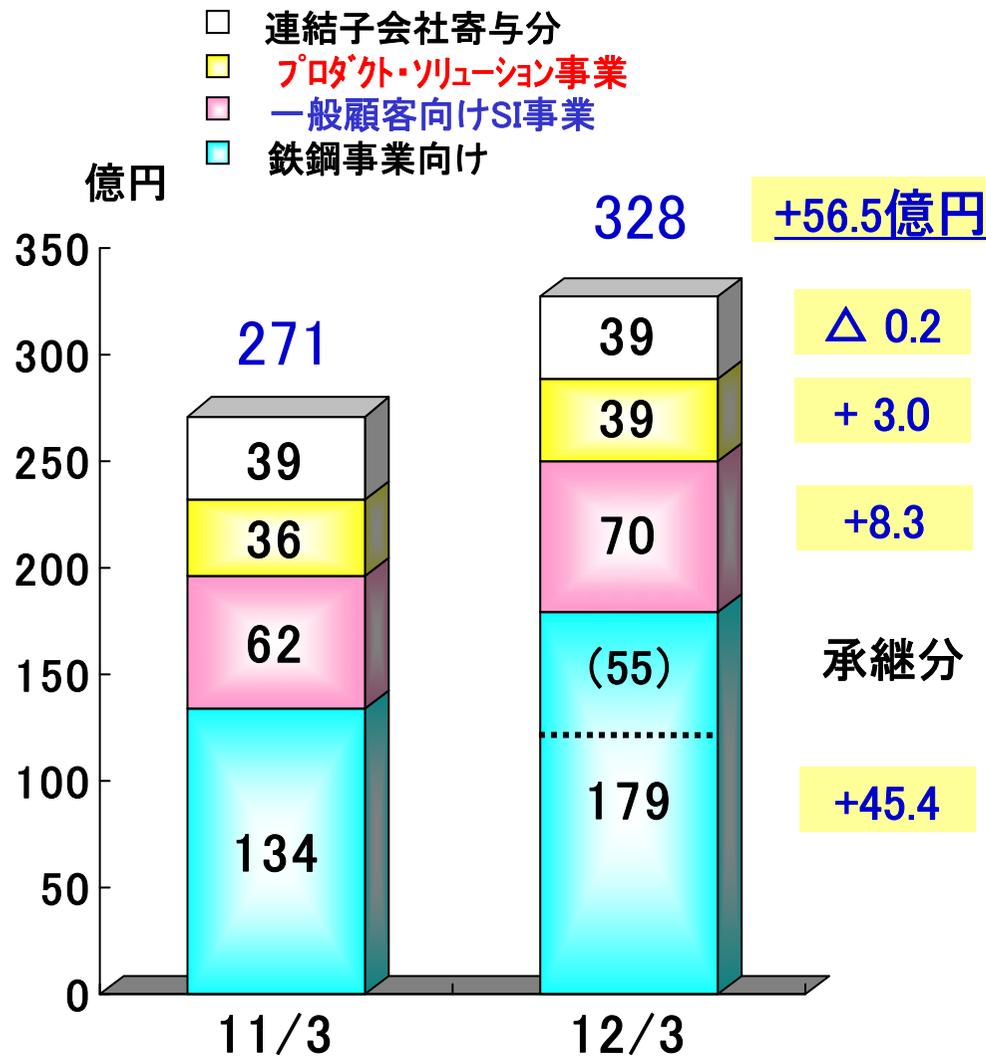
単位:百万円	2011年 3月期	2012年 3月期	増減	
			金額	率
① 売上高	27,101	32,754	5,653	+ 20.9%
売上総利益	4,603	5,745	1,143	+ 24.8%
(売上総利益率)	17.0%	17.5%	(0.5%改善)	
営業利益	405	878	474	+ 117.1%
② 経常利益	419	841	422	+ 100.7%
(経常利益率)	1.5%	2.6%	(1.1%改善)	
③ 当期純利益	204	352	148	+ 72.3%
EPS(円/株)	2,601	4,483	1,882	+ 72.3%

- ①(売上高) 事業統合と外販事業の拡大により売上高は57億円増加
 ②(経常利益) 外販事業収益の向上、事業統合による拡大、構造改革推進により利益が**倍増**
 ③(当期純利益) 税制改正による繰延税金資産の取り崩しにより増加幅は減少

2012年3月期 売上高増減の内訳



(連結: 前期比)

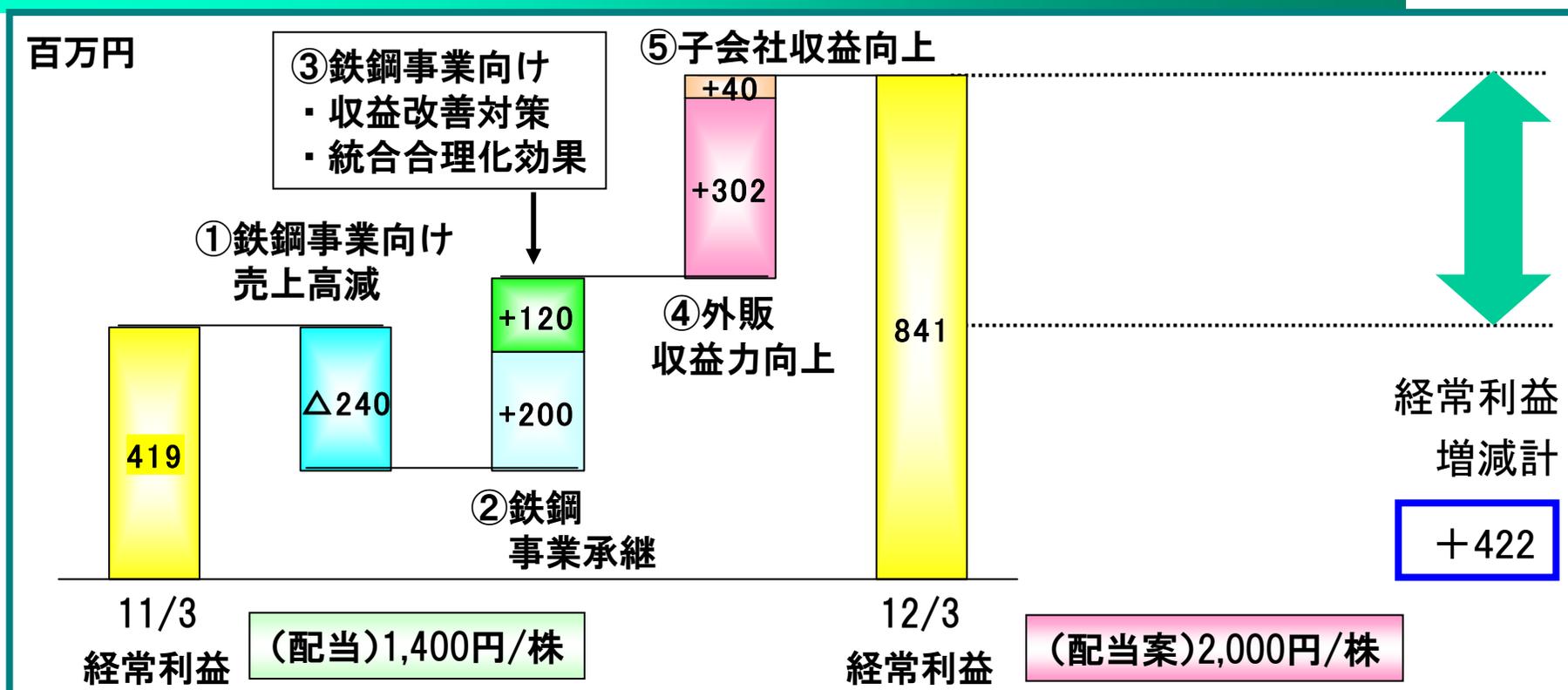


・原価採算管理	+1.4
・食品	+0.9
・電子帳票	+0.5
・人事給与	+0.5
・その他	△0.3
合計	+3.0

・製造流通向け	+5.2
・金融向け	+3.1
合計	+8.3

・事業統合に伴う規模拡大	+54.9
・既存部門の減少	△9.5
合計	+45.4

(連結:前期比) 2012年3月期 経常利益増減の要因 JFE



主な経常利益増減要因	金額
①鉄鋼売上高減少(既存分野△9.5億円)等による収益悪化	△240
②事業承継分増益(売上高+55億円、収益寄与2億円)	+200
③鉄鋼大型不採算案件の防止、統合効果(要員スリム化)等	+120
④製造流通・金融の収益増、プロダクト高収益維持等	+302
⑤子会社(KIT)のスチール事業所領域拡大、テレコム高収益維持等	+40

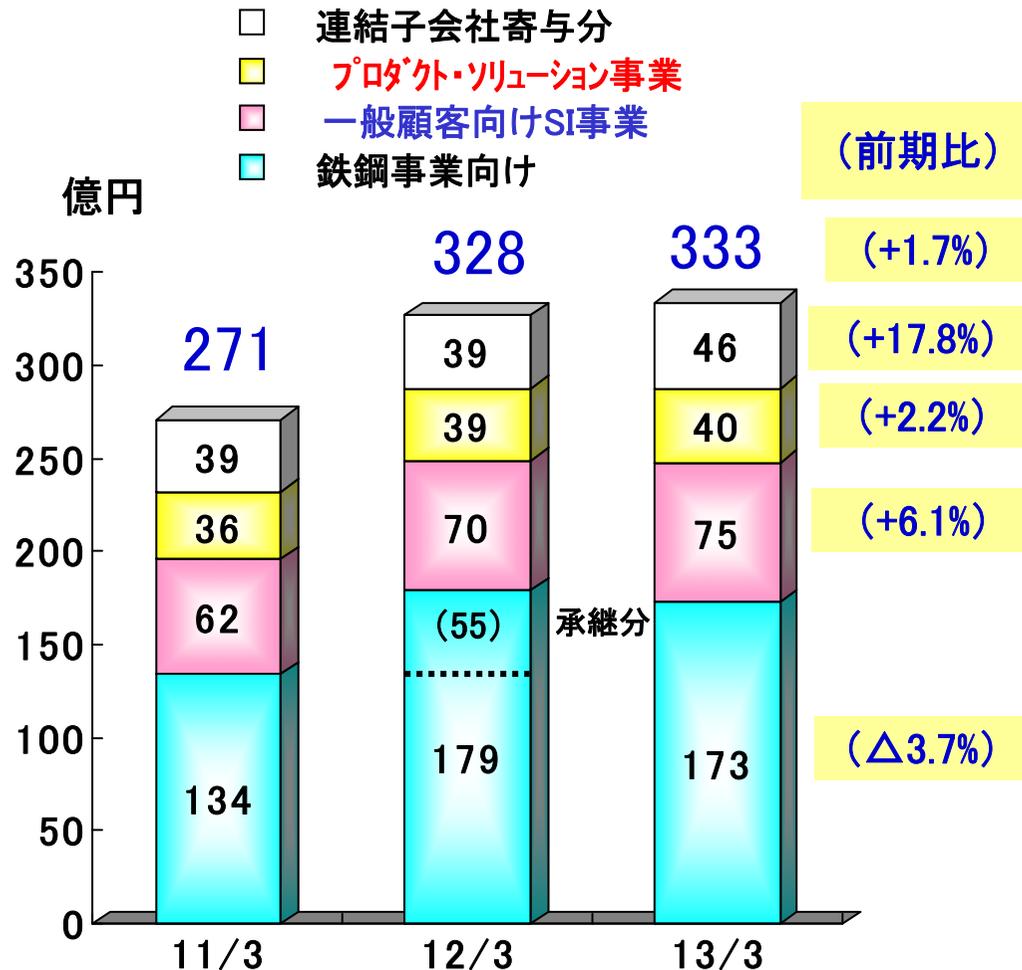
Ⅱ. 2013年3月期 業績見通し

2013年3月期見通し概要

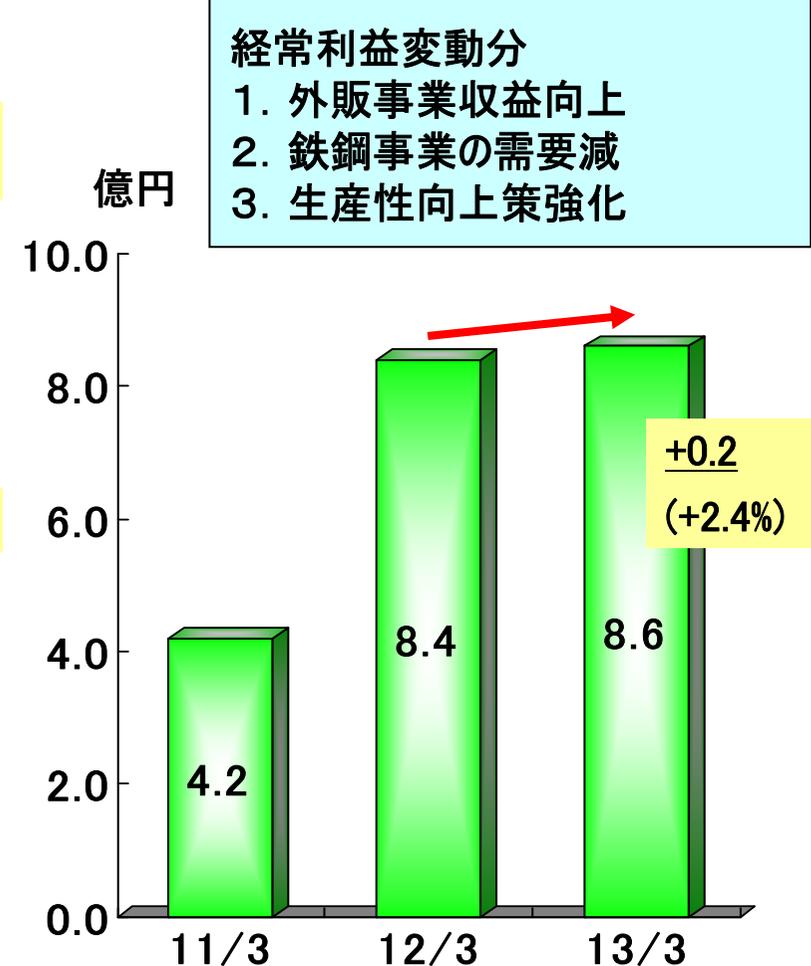


鉄鋼のIT投資は不透明であり売上高減により収益減となるが、外販への要員シフトと構造改革推進による収益向上を図り、前期を上回る利益水準を確保する

< 連結売上高 >



< 連結経常利益 >



2013年3月期見通し(連結:前期比)



単位:百万円	2012年 3月期	2013/3 見通し	増減	
			金額	率
① 売上高	32,754	33,300	546	+ 1.7%
売上総利益	5,745	6,000	255	+ 4.4%
(売上総利益率)	17.5%	18.0%	(0.5%改善)	
営業利益	878	860	△18	△2.1%
② 経常利益	841	860	19	+ 2.2%
(経常利益率)	2.6%	2.6%	-	
③ 当期純利益	352	460	108	+ 30.7%
EPS(円/株)	4,483	5,858	1,375	+ 30.7%

①(売上高) 鉄鋼事業向け減少分を、外販事業と子会社売上増によりカバー

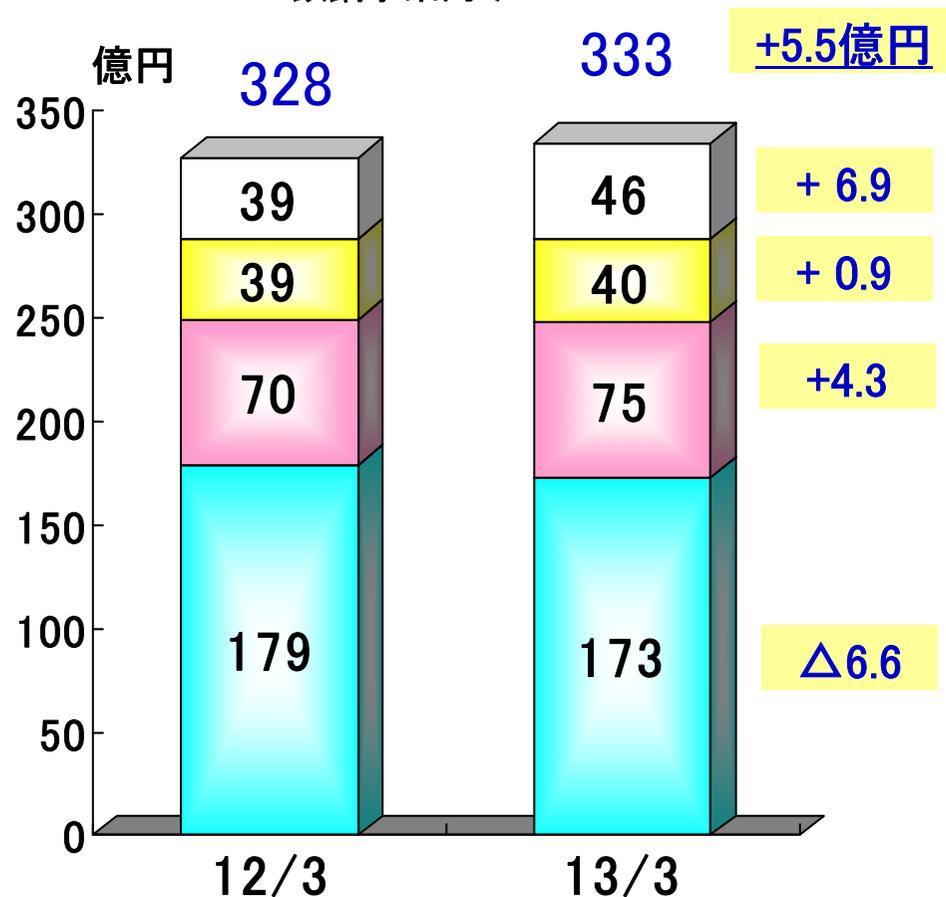
②(経常利益) 鉄鋼の売上高減により収益減となるが、外販への要員シフトと構造改革推進による収益向上を図り、前期を上回る利益水準を確保する

③(当期純利益) 前期は、税制改正による繰延税金資産の取り崩しを行った

2013年3月期見通し

売上高増減の内訳(連結:前期比)

- 連結子会社寄与分
- プロダクト・ソリューション事業
- 一般顧客向けSI事業
- 鉄鋼事業向け



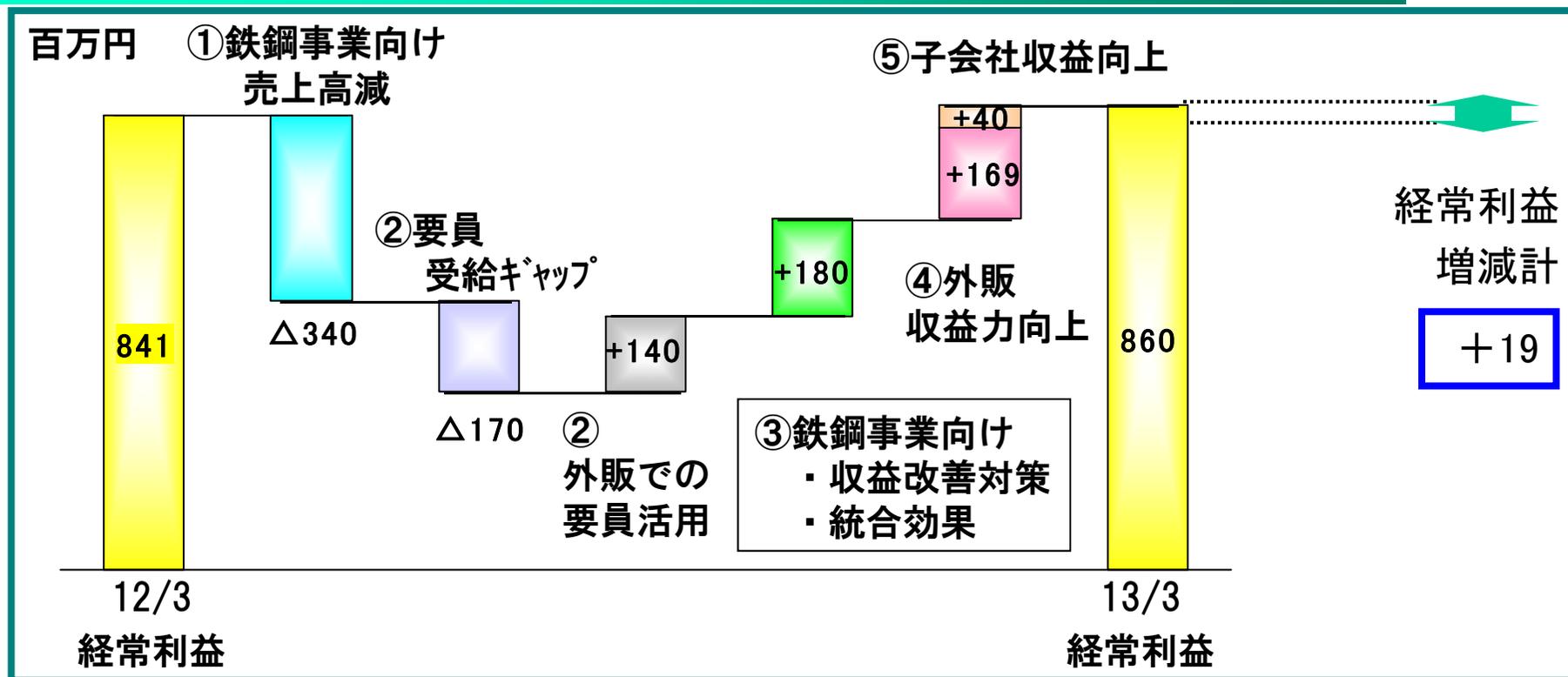
連結子会社寄与 増 (億円)	
・インフラサービス、MJアラート等増	+6.9

プロダクト・ソリューション事業 増 (億円)	
・電子帳票	+0.7
・食品	+1.2
・人事給与	△0.5
・その他	△0.5
合計	+0.9

一般顧客向けSI事業 増 (億円)	
・製造流通向け	+7.2
・金融向け	△2.9
合計	+4.3

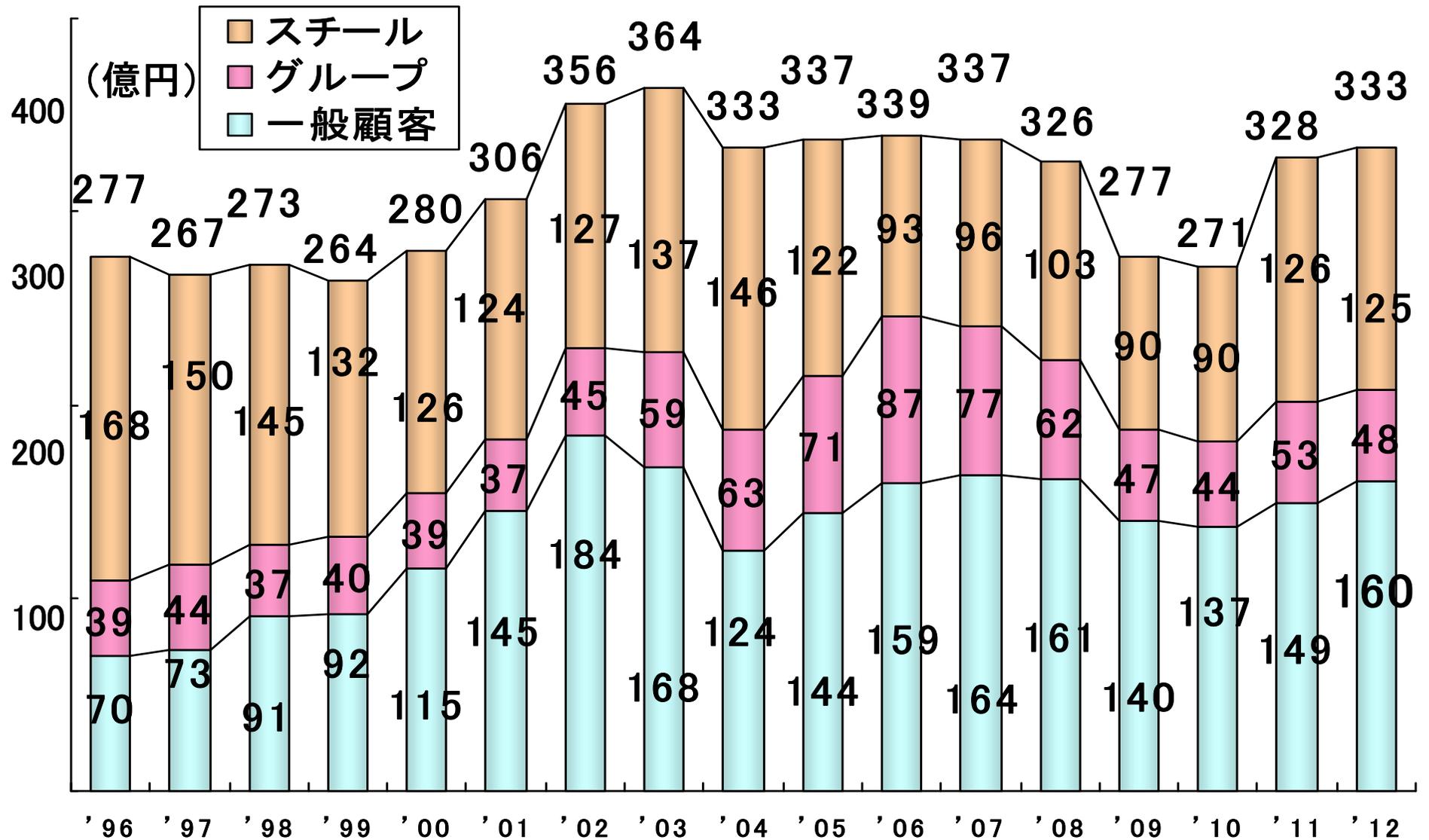
鉄鋼事業向け 減 (億円)	
・投資抑制による規模縮小	△6.6

2013年3月期見通し 経常利益増減の要因 (連結:前期比)



主な経常利益増減要因	金額
①鉄鋼事業向け売上高減	△340
②要員需給ギャップ発生に対して、外販充当リスク△0.3億円を見込む	△30
③鉄鋼収益対策(生産性向上等)＋合理化促進	+180
④外販構造改革推進、全事業黒字化推進	+169
⑤子会社収益向上(IT収益向上、ITインフラ拡大)	+40

売上高の推移

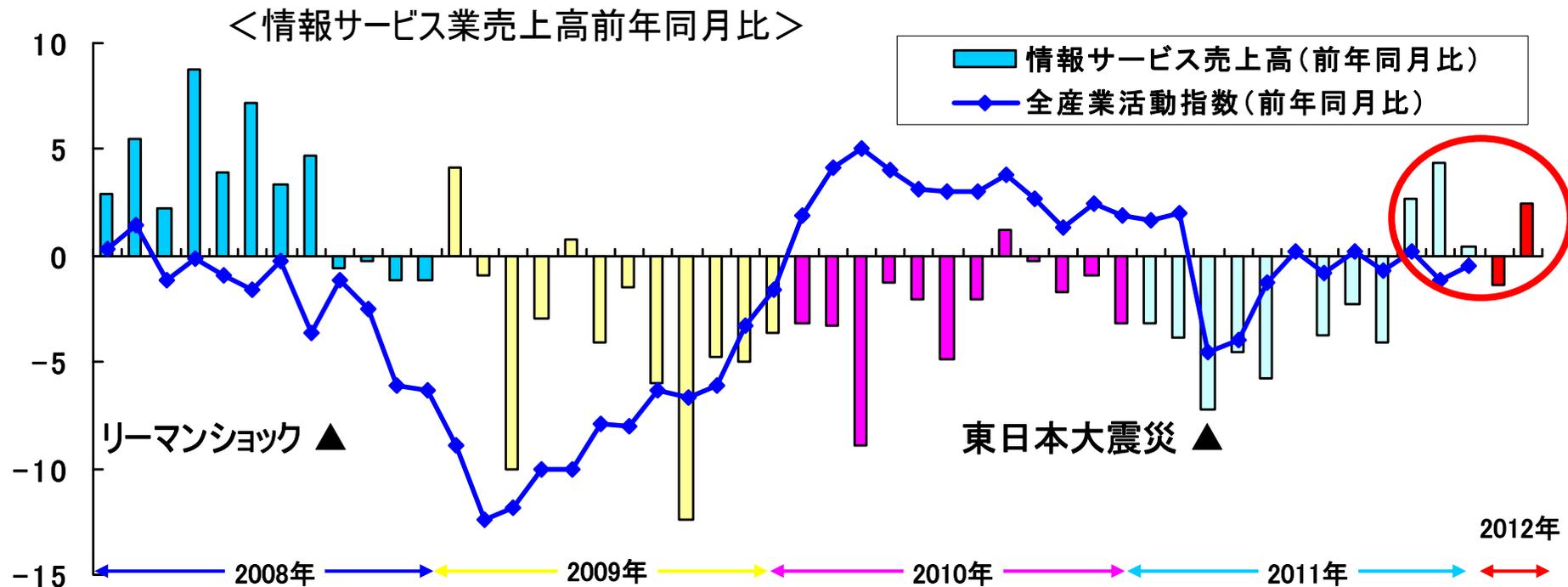


(注)'02年度以降は連結売上高を記載

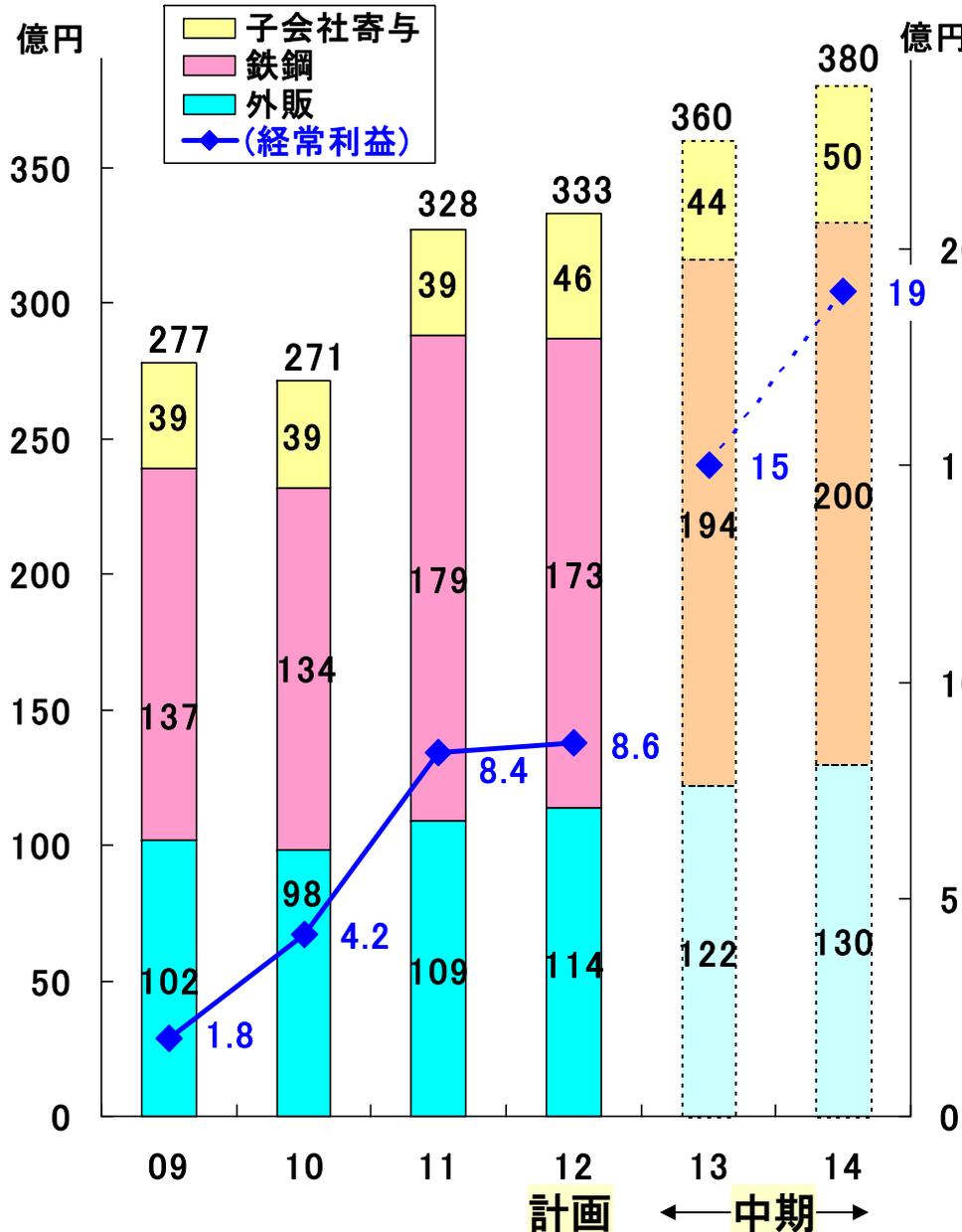
(見通し)

Ⅲ. 中期重点施策の推進状況と 今後の取組み

- 2008年9月以降、リーマンショックに端を発した世界的な景気低迷や東日本大震災による国内企業の収益の悪化により、情報サービス業界はマイナス成長が続いたが、過去3年に渡り抑制・先送りされてきた投資案件の再開等により、2011年10月以降プラス傾向に転換する兆しが出てきている。
- 2012年度は、上記のトレンドを受けて、緩やかな成長を見込む
- JFEスチールは収益向上に向けた取り組みを推進中であり、IT投資動向は不透明



中期計画の骨子



中期目標(2014年度)の考え方

売上高 : **380億円**

経常利益率 : **5%**

◆鉄鋼向け売上は不透明であるため、連結売上高目標を400→380億円へ見直すが、ROS 5%目標は堅持する。

中期重点課題

- 事業統合を梃子にした収益拡大**
 - ・全社横断的な業務革新活動推進
 - ・上流人材に厚み→外販事業での活用
- SI顧客基盤の強化・拡大**
 - ・既存顧客での領域拡大
 - ・新規顧客開拓(グローバルSCM等の提案)
- プロダクト事業の更なる成長**
 - ・自社プロダクトの市場拡大と収益向上
 - ・新商品を立ち上げ
- 施策推進の核となる上流人材の育成**

1. 鉄鋼事業統合を梃子にした収益拡大



<中期主要課題>

<2011年度の取組み状況と評価>

<ユーザーの環境変化>
・鉄鋼IT投資動向不透明

統合効果を活かした体質強化

■設計・開発方法論の統一／標準化による
生産性、品質向上

・標準整備&レベルアップ活動

■一体運営・融合の推進
・要員スリム化
・鉄鋼部門内要員交流
・人材基盤強化

→企画・提案人材に厚み
→各地区システム比較・診断

JFEスチールIT戦略の推進

■グループ唯一のIT企業として**企画提案力強化**

・電炉統合、海外PJ(タイ)等の主要ITテーマを共同で推進中
・スチール中期IT戦略立案に参画

■鉄鋼⇔外販ソリューションの**相互活用推進**

・PJ立上げ→活動推進中

<今後の注力ポイント>

◆統一標準の実適用フェーズへ

◆鉄鋼上流人材を外販へシフト

◆品種系列別の全社横断的な部会活動
・システム診断
・チャンピオン技術トランスファー

◆スチールへの案件企画提案強化

◆グローバル連携システムへの協力(企画提案)

◆ソリューション相互活用推進

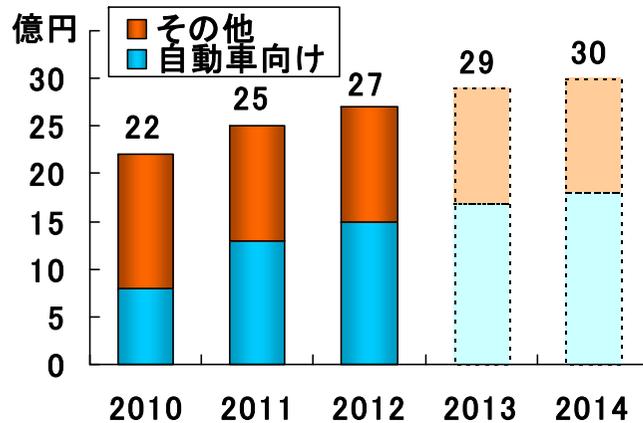
2-1. 製造流通SI事業基盤の強化・拡大

中期方針

- <大手> 重点顧客における領域拡大
- <中堅> 新規開拓(グローバルSCM等)

安定顧客基盤構築による
収益向上・安定化

【製造流通・重点顧客売上推移】

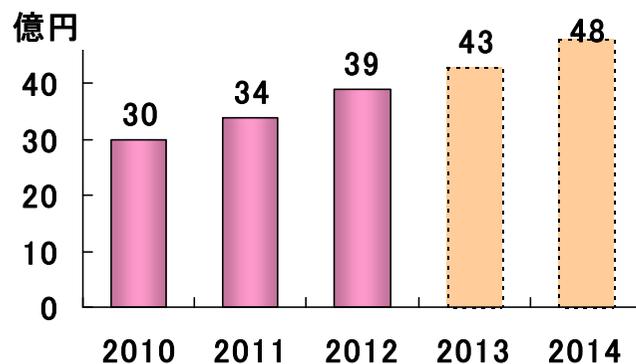


重点顧客における領域拡大

- 既存担当領域で定着した信頼感をベースに、
企画構想フェーズから参画
- 全社からのローテーション・応援体制を強化し、
顧客の要請に的確かつ迅速に対応

大手自動車メーカーを中心に新規案件を獲得

【製造流通・新規開拓売上推移】



新規開拓(グローバルSCM等)

- 「ローコストERP」, 「グローバルSCM」に
対応したソリューションを整備
- 原価、BI、EC等実績のある自社固有
ソリューションと組合わせて提案

グローバル展開を行なう顧客からの案件が増加

重点顧客候補発掘

2-2. 金融システム事業のビジネスモデル改革

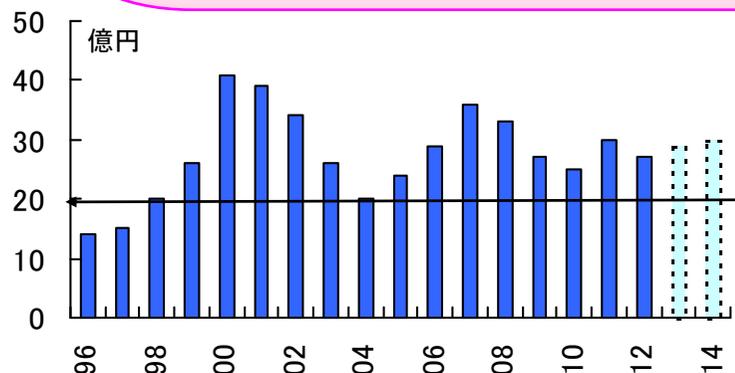
金融ビジネス中期課題

- リーマンショック後の環境変化を受け、従来のビジネスモデルの転換が課題に。
- ソリューション提案型への転換を軸とする改革プランを練り上げ、推進していく。

上流業務技術者の育成
→ 育成プラン作成、教育講座開設

金融ソリューションの開発
→ 下期リリースを計画

【金融向けS-I売上推移】



ソリューション提案型ビジネスへ転換

安定ビジネス領域の拡大

ノンカスタマーへの進出
→ 生損保への参入を具体化

得意領域に戦力を集中
→ 信託、クレジットをターゲット

3-1. プロダクト事業の更なる成長に向けて



- 20年以上前から自社プロダクトビジネスを展開→商品開発、販売のノウハウを蓄積
- 電子帳票、食品等の主力商品の更なる成長と次世代商品の開発を推進する。

【自社開発商品の年表】 主力商品として強化 新規立上げ・拡大 安定・継続

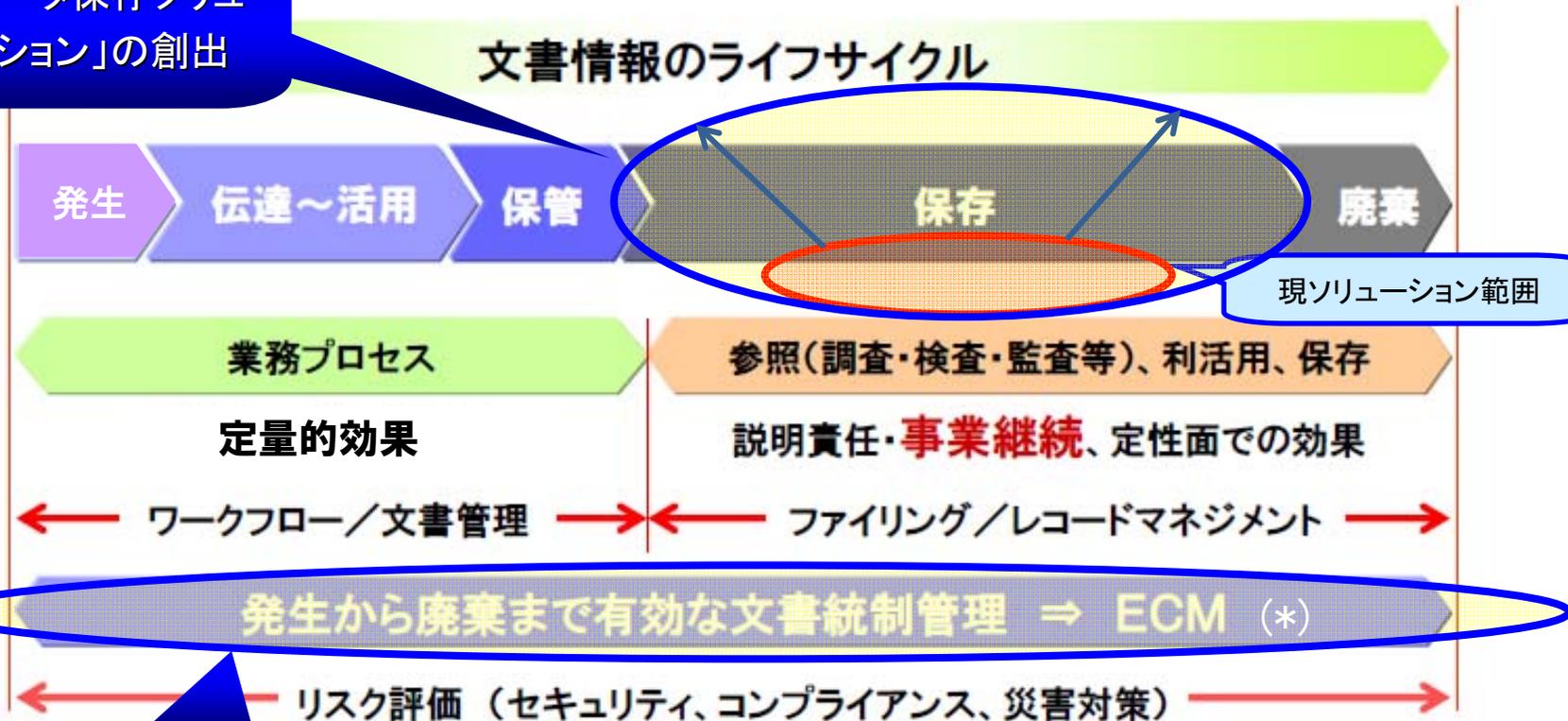
分類	90年～	95年～	00年～	05年～
JFEスチール向けで開発したシステムをパッケージ化	1991 OPENWAY FT (ファイル転送)		J-CCOREs (原価管理) 2003	J-Procure (調達管理) 2005
自社開発商品	1992 FiBridge (電子帳票)		FileVolante (電子帳票)	
(点線は仕入商品による事業)	<DWH/BI>			KPI-Mart 2009
	<EC/EDI>		EnterpriseCommerce 2001	
	<人給システム>	J-Forpe 1997		
	<コールセンターシステム>	SoftDialer 2000		
			<食品システム> Mercrius (品質情報) 2002	Quebel (製法管理) 2007

3-2. 電子帳票システム事業の成長シナリオ

■さらなる収益力の向上と市場拡大を目指す

- ①データ保存ソリューションの創出 ②ドキュメントトータルソリューションの創出

①「データ保存ソリューション」の創出



②「ドキュメントトータルソリューション」の創出

「危機管理・BCPに有効なコンテンツ管理の最新動向(JIIMA)」より

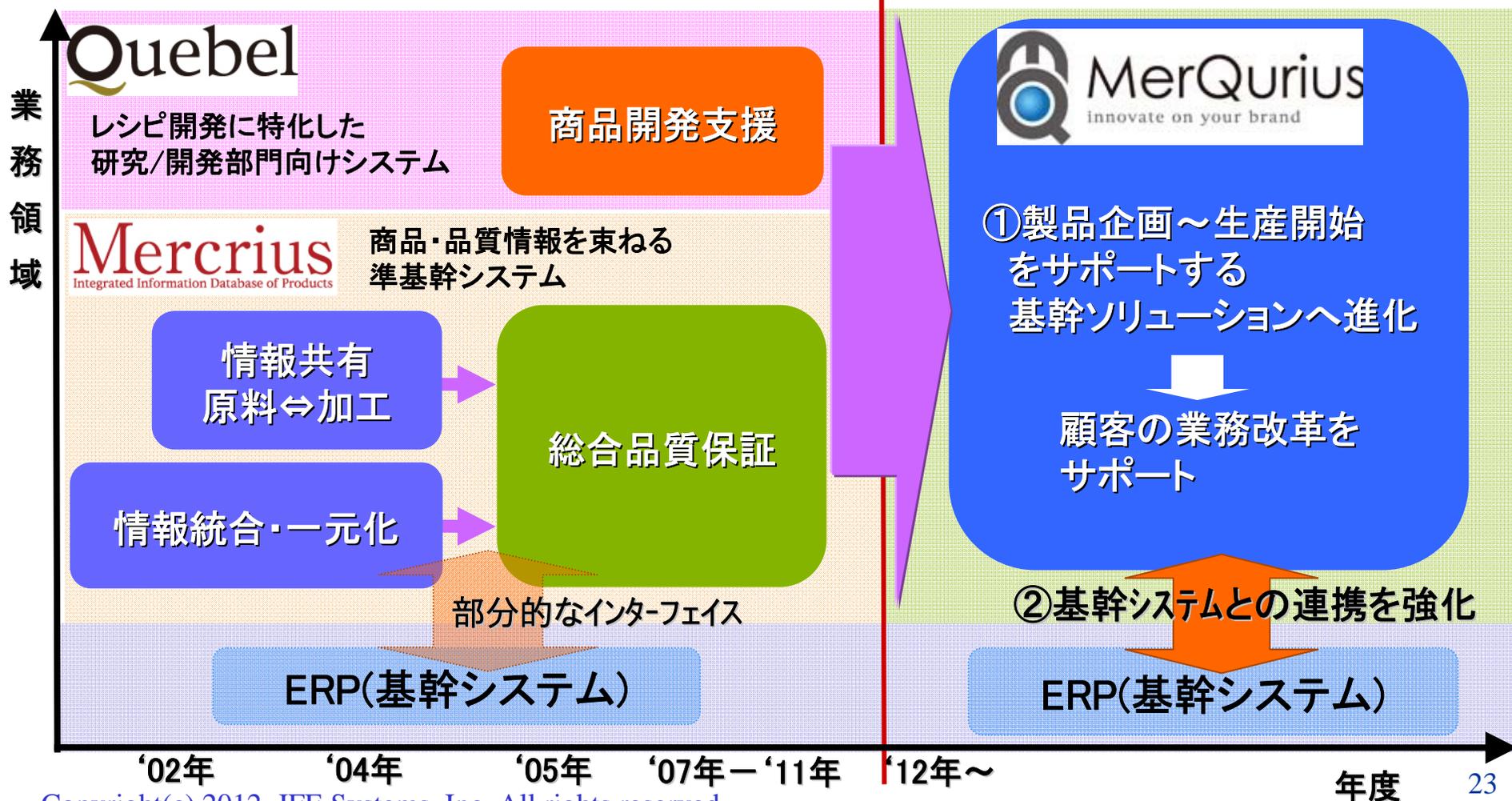
(*)ECM (enterprise content management)

企業・組織が保有する文書やコンテンツを組織的・統合的に登録・保存・管理・利用するというコンセプト、ないしはそれを実現するための技術やシステムのこと

3-3. 食品ソリューション事業の成長シナリオ

■さらなる収益力の向上と市場拡大を目指す
 ①Mercrus／Quebel統合、②基幹システム連携

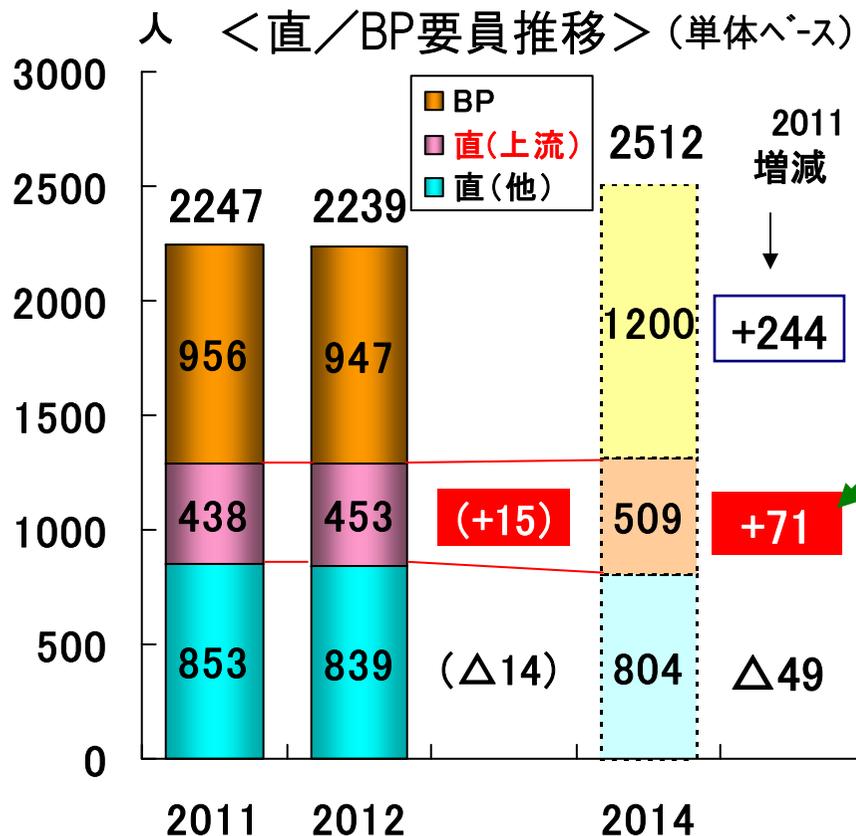
個々の業務・機能に対する提案/導入を実施 → MercrusとQuebelを統合提供



4. 上流(企画・提案)人材の育成・増強

事業環境と中期要員課題

- 顧客の業務改革パートナーとしての役割が増大
- 事業統合により、上流人材層に厚み → 育成・増強を加速
- 鉄鋼→外販への要員シフトにより中期外販事業拡大に活用



補足データ(単体損益)

2012年3月期業績



(単体:計画比)

単位:百万円	計画	実績	増減	
			金額	率
売上高	29,200	28,876	△ 324	△ 1.1%
営業利益	780	818	38	+ 4.9%
経常利益	740	782	42	+ 5.7%
(経常利益率)	2.5%	2.7%	(0.2%改善)	
当期純利益	370	354	△ 16	△ 4.4%

2012年3月期業績



(単体:前期比)

単位:百万円	2011年 3月期	2012年 3月期	増減	
			金額	率
売上高	23,208	28,876	5,668	+ 24.4%
売上総利益	3,926	4,975	1,049	+ 26.7%
(売上総利益率)	16.9%	17.2%	(0.3%改善)	
営業利益	373	818	445	+ 119.3%
経常利益	400	782	383	+ 95.6%
(経常利益率)	1.7%	2.7%	(1.0%改善)	
当期純利益	205	354	149	+ 72.6%
EPS(円/株)	2,610	4,506	1,896	+ 72.6%

連結子会社KITシステムズの業績



<会社概要>

- ・資本金:2億円
- ・設立:1986年10月
- ・株主:当社67.5%、JFE商事32.5%
- ・社長:清原 庄三 (会長:菊川 裕幸)
- ・従業員数220名(2012年3月末)
- ・事業内容:情報システム開発/運用、情報通信機器販売/付帯サービス

業績

単位:百万円

	2011/3 実績	2012/3 実績	増減
売上高	6,560	6,299	△ 260
経常利益	50	53	3
当期純利益	20	△ 11	△ 31

税制改正による繰延税金資産の取り崩し影響

JFEシステムズ株式会社

ご清聴ありがとうございました。

(ご注意)

本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき願います。